

2019年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31105	キャリアデザインⅢ Career Design Ⅲ	千賀 敬之 鷗野 清香	基礎	1	選択	1年 後期

科目の概要

社会人の基礎力として大切である「考え抜く力(シンキング)」を修得するために、一般常識の知識と就職試験の適性検査等で問われる論理的思考力を数学と一般常識を通して学修する。また、時事問題と関連付けたアクティブラーニングを通して、社会全般について学修します。社会人基礎力、論理的で柔軟な思考や独自の発想を修得することは、就職対策ともなる。
*アクティブラーニングとは、教員による一方的な講義形式とは異なり、みなさんの能動的な学修への参加を取り入れたもので、学修方法としては、教室内のグループ・ディスカッション、グループ・ワーク等になる。
*なお、第1週から第3週までは、日本語の一般常識として語彙力・読解力・表現力の講義・演習を行う。

学修内容	到達目標
① 就職試験に必要な計算方法を理解し、計算基礎力を高めることを目的とする。	① 基礎的かつ重要な計算問題を、正確にかつ短時間で解く計算力を身につけることができる。
② 就職試験に必要なブラックボックス等の試験問題に取り組み、推理・判断力を高めることを目的とする。	② ブラックボックス等の問題に取り組み、推理・判断力を身につけることができる。
③ 文章問題に取り組み、数式で表す論理力を高めることを目的とする。	③ 文章問題に取り組み、論理的に物事を考える力を身につけることができる。
④ 時事問題を調査分析し、その中から課題を発見し、他者に伝達できることを目的とする。	④ 時事問題より自身の興味のある問題を見つけ、調査分析し、これらについて他者に伝達することができる。
⑤ 社会人として重要な規律性を認識し実践する中で、規律性を継続的に維持できることを目的とする。	⑤ 授業への取り組み方を通して、社会人として重要な規律性を維持することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	課題に対して受け身ではなく、自ら今やるべきことを選択し、必要に応じて文献等を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	待つのではなく、自ら周囲に呼び掛け、課題に向けて周囲を動かしていくことができる。
	実行力	自らやるべきことに対する目標を設定し、具体的に行動し、粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	現状に関心を持ち、自ら現状に対して課題を見つけ、自身の憶測や思い込みではなく事実に基づいた情報を客観的に整理分析し、発見した課題を他者へ示すことができる。
	計画力	課題の解決法を複数考え、最善策を決定し、課題解決の準備を明確に示すことができる。
	創造力	既存の物事、出来事にとらわれることなく、新しい事柄を考えていくことができる。
チームで働く力	発信力	自分の意見を他者へ理解してもらえるように、自分の調べたことや考えを整理し的確に伝えることができ、発表時には、発表の仕方を工夫し他者に伝わりやすい発表ができる。
	傾聴力	他者が話しやすいような雰囲気を含め、話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問・あいづちする等行う中で、他者の意見を引き出すことができる。
	柔軟性	固定観念にとらわれず、他者の意見を尊重し、必要に応じて受け入れることができる。
	状況把握力	現状を冷静かつ客観的に判断し、その中でどの様な役割を果たせば良いのか分かる。
	規律性	状況に応じて、その場のルール等に則した言動・行動を取ることができる。
	ストレスコントロール力	過度なストレス状態になった場合、自らに合った方法でストレスコントロールができる。

テキスト及び参考文献

テキスト:使用しません。毎回プリントを配布しますので、各自でファイルを用意してください。
参考文献:毎日生じるニュース(時事)が参考文献です。新聞や WEB 上のニュース等による記事を積極的に参考にしてください。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連:なし
資格との関連:メディカル秘書

学修上の助言	受講生とのルール
数学は高校入試レベルの基礎を中心に実施。就職試験及び社会で最低限必要とされるレベル。必ず復習し、身に付けよう。日本語についても高校レベルの語彙力・読解力・表現力を身に付けるため、繰り返し練習しよう。	社会では、気になった記事について発表する時間を設けるので、新聞や WEB 上のニュース記事を読む習慣をつけよう。また、グループディスカッションを取り入れた授業となるので、迷惑を掛けることのないように授業に取り組もう。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験	50	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った解法や公式、社会常識と時事問題の定着を確認する。 ・次の到達レベルをもって合格の基準とする。 中卒程度の数学・社会・日本語の学力を80%程度有する。・・・S 中卒程度の数学・社会・日本語の学力を70%程度有する。・・・A 中卒程度の数学・社会・日本語の学力を60%程度有する。・・・B 中卒程度の数学・社会・日本語の学力を50%程度有する。・・・C Cのレベルに達していない・・・F
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
小テスト	40	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った解法や公式などの定着を確認する。 ・復習を行ったことが分かる解答になっているか、諦めずに問題に取り組んだか(適宜部分点を配点する)テストに取り組む態度等も含め評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> (規律性) ・受講態度(遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題の未提出)が見られる場合やグループ活動へ非協力、取組みが悪い等見られる場合は減点する。 ・6回以上の欠席は0(放棄)判定とする。 (主体性) ・課題、提出物について自身で調査・分析を行う等、自己学修ができています。 (実行力) ・課題に対する目標を設定し、目標達成に向け途中で投げ出すことなく取り組むことができています。 (課題発見力) ・時事問題に対して自ら考える課題を見つけ、思い込みではなく事実に基づいた情報を客観的に整理分析し発見することができています。 (創造力) ・調査した時事問題に対し、新たな対策などのアイデアを考察することができています。 (発信力) ・グループ活動において自分の意見の要点を整理し、他者に伝わりやすいように的確に伝えることができています。 (傾聴力) ・グループ活動において発言者に対し「あいづち」や「うなづき」を取り入れ、話を聞く姿勢ができています。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
その他				
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
Sは、中卒程度の数学・社会・日本語の学力を80%程度有し、グループディスカッションなどで適切な自己表現と他者とのコミュニケーションが円滑にとれていること。 Aは、中卒程度の数学・社会・日本語の学力を70%程度有し、グループディスカッションなどで適切な自己表現と他者とのコミュニケーションが円滑にとれていること。	Bは、中卒程度の数学・社会・日本語の学力を60%程度有し、グループディスカッションなどで自己表現と他者とのコミュニケーションが成立していること。 Cは、中卒程度の数学・社会・日本語の学力を50%程度有し、グループディスカッションなどで自己表現と他者とのコミュニケーションが成立していること。

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	語彙力の向上を目標に、一般教養試験対策としても、漢字・熟語・慣用句などの問題に取り組む。	シラバスを参照しながら、講義・演習などの授業の方法と小テスト、予習復習のための課題、評価方法などについて説明する。社会人基礎力をはぐくむ学泉ノートを参照し、この授業で身に付ける社会人基礎力を確認する。	同訓異字、同音異義、難読語、四字熟語、慣用句などの演習で5割の正答率。	(復習) 配付したプリントにより、異字、同音異義、難読語、四字熟語、慣用句など語彙力を身に付ける。	90	実行力 計画力 傾聴力 規律性
2週 /	読解力の向上を目標に、一般教養試験対策としても、文章題を読み、主旨や組み立ての問題に取り組む。	講義・演習・発表 授業開始時に課題の「難読語」「慣用句・ことわざ」小テストを行う。問題の解説・前回の授業の振り返りのフィードバックも行う。長文読解では、就職試験読解のキーワードを講義し、3例題を演習する。	「難読語」「慣用句・ことわざ」小テストは6割の正答率。 長文読解の文章問題の演習は5割の正答率。	(予習) 小テストの範囲である「難読語」「慣用句・ことわざ」を学修する。 (復習) 就職試験などの文章題を読み、主旨や文章の組み立てを復習し、読解力を身につける。	90	課題発 見力 主体性
3週 /	表現力の向上を目標に、一般教養試験対策としても、小論文作成の手順や文章構成の方法を学び、問題に取り組む。	講義・演習・発表 授業開始時に課題の「同音異義語」「同訓異字語」「誤りやすい漢字」小テストを行う。問題の解説・前回の授業の振り返りのフィードバックも行う。小論文作成では原稿用紙の使用法、文章構成の方法を学修し、実践・発表する。	「同音異義語」「同訓異字語」「誤りやすい漢字」小テストは6割の正答率。 テーマ型・資料読解型の例題で小論文の練習は5割の正答率。	(予習) 小テストの範囲である「同音異義語」「同訓異字語」「誤りやすい漢字」を学修する。 (復習) テーマ型・資料読解型の例題で小論文の練習をする。	90	課題発 見力 発信力 主体性
4週 /	就職試験にトライしてみよう。過去のSPI3の数理力、一般常識試験にトライしてみることで現在の自分のレベルを知る。	テスト・講義 授業の方法と小テスト、予習復習のための課題について説明し、演習する。	制限時間内真剣に問題に取り組むことができ、自分自身が理解している分野と理解が不足している分野について明確にすることができる。	(復習) 授業で扱った問題「過去のSPI3の数理力、一般常識試験」を自力で解けるように見直すこと。	90	実行力 課題発 見力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
5週 /	数学について 計算基礎①&速度算・仕事算の問題演習に取り組む。 社会について 時事問題①の問題演習に取り組む。	講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。			90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	社会について 時事問題②・政治制度、社会保障制度の問題演習に取り組む。	小テスト・講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。			90	
7週 /	数学について 計算基礎②&割合・比・損益算の問題演習に取り組む。 社会について 時事問題③の問題演習に取り組む。	講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。	数学の計算基礎では、類題を自力で解くことができる。また、数学で扱う文章題について、考え方・解法を理解し、自ら計算式を組み立て解くことができる。	(予習)1週間の中で、自分自身が気になったニュース(時事問題:政治、経済、国際)から1つ取り上げ、それについて概要を調べて、自分自身の考えを明確にしておくこと。	90	
8週 /	社会について 時事問題④・経済の問題演習に取り組む。	小テスト・講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。	社会(時事問題)では、1週間の中で自分自身が気になったニュースから1つ取り上げ、その概要と、その記事から自分自身が考えたことを他者に伝えることができる。また、社会で扱う内容について、自己の現在と将来との関連を考え、理解することができる。	(復習)授業で扱った問題(数学:計算基礎①~⑤、速度算・仕事算、割合・比・損益算、濃度算・二重割合、関数・図形、図表の読み取り・ブラックボックス・暗号)	90	
9週 /	数学について 計算基礎③&濃度算・二重割合の問題演習に取り組む。 社会について 時事問題⑤の問題演習に取り組む。	講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。		時事問題:政治、経済、国際)を自力で解けるように見直すこと。	90	
10週 /	社会について 時事問題⑥・国際機関の問題演習に取り組む。	小テスト・講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。			90	
11週 /	数学について 計算基礎④&関数・図形の問題演習に取り組む。 社会について 時事問題⑦の問題演習に取り組む。	講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。			90	

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
12週 /	社会について 時事問題⑧・社会問題①の問題演習に取り組む。	小テスト・講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。	社会(時事問題)では、1週間の中で自分自身が気になったニュースから1つ取り上げ、その概要と、その記事から自分自身が考えたことを他者に伝えることができる。また、社会で扱う内容について、自己の現在と将来との関連を考え、理解することができる。	(予習)1週間の中で、自分自身が気になったニュース(時事問題:政治、経済、国際)から1つ取り上げ、それについて概要を調べて、自分自身の考えを明確にしておくこと。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	数学について 計算基礎⑤&図表の読み取り・ブラックボックス・暗号の問題演習に取り組む。 社会について 時事問題⑨の問題演習に取り組む。	講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。	数学の計算基礎では、類題を自力で解くことができる。また、数学で扱う文章題について、考え方・解き方を理解し、自ら計算式を組み立て解くことができる。	(復習)授業で扱った問題(数学:計算基礎①~⑤、速度算・仕事算、割合・比・損益算、濃度算・二重割合、関数・図形、図表の読み取り・ブラックボックス・暗号 時事問題:政治、経済、国際)を自力で解けるように見直すこと。	90	
14週 /	社会について 時事問題⑩・社会問題②の問題演習に取り組む。	小テスト・講義とグループワーク・発表 授業開始時に前回の授業及び課題のフィードバックを行う。			90	
15週 /	総復習 15回の授業を振り返り、筆記試験に向けた総復習を行う。	講義とグループワーク・発表 授業開始時にこれまでの授業のフィードバックを行う。	今まで学修したことを元に、課題について自力で解くことができる。		90	

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

